令和7年度 千葉県 英語教育改善プラン

目標

積極的に英語を使い、コミュニケーションを楽しみ、自分の気持ちや考えを伝え合うことができる児童の育成。

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①・・・R6全国学力・学習状況調査の結果から英語の勉強が好きと肯定的に答えた児童が増加した。

	R5	R6
6年生	72.3%	72.8%

②・・・話すこと（やりとり及び発表）を評価するパフォーマンステストの実施が増加した。

	R5	R6
5年生	97.2%	99.5%
6年生	97.8%	99.7%

未だ改善が必要な点

①・・・授業中に言語活動を50%以上行っている学校が減少した。

	R5	R6
5年生	95.0%	91.5%
6年生	94.1%	91.8%

②・・・外国語担当教員が、より多くの指導力向上研修を必要としている。

2. 要因分析

①・・・指導主事による学校訪問等の際、授業改善を目的とした指導により、教員の意識が高まり、児童が楽しみながら、言語活動等に取り組めるようになってきていることが考えられる。

②・・・パフォーマンステスト実践事例集を作成し、HPに載せたことで理解が深まり、実施する学校が増加したと考えられる。

①・・・言語材料について理解するための指導にとどまり、言語活動への理解や場面、目的、状況の設定等に課題があることが要因として考えられる。

②・・・授業実践が進み、教師にとって研修で求める内容も変化しているが、働き方改革等により、研修機会の確保が難しい現状があると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①・・・引き続き各種研修等を活用し、各授業のめあて・目標等に向けて、児童が楽しみながら活動できるよう、言語活動の内容の検討やALT及びICT機器を活用しながらの授業改善につながるよう指導助言していく。

②・・・今後も県HPを活用しながら、パフォーマンステストについて引き続き周知するとともに、MEXCBTを活用したパフォーマンステストの実施等についても呼びかけていく。また、各種研修等を活用し、パフォーマンステストの在り方について協議するなど研修の充実を図ることで、理解をさらに深め、実践につなげていく。

①・・・各種研修や学校訪問において、継続的に言語活動を通じた授業について指導助言していく。各学校での言語活動がさらに充実するように、全県の指導方針の統一や指導主事の連携強化を図るため、指導主事研修会において情報交換や勉強会等を行い、指導主事の指導力向上を図ることで対応していく。

②・・・小学校外国語スキルアップ研修において、音声から文字への指導、評価等、教師の課題等を把握して実施していく。また、文部科学省のオンライン研修や千葉県作成の研修動画等を活用していく。
(参考URL→<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gaikokugokyouiku/shouchuukou.html>)

令和 7 年度 千葉県 英語教育改善プラン

英語を使って、自分の気持ちや考えを即興で伝え合うことができる生徒の育成。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : 55.9% ⇒ R7 : 60%)

目標

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他

(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①・・・中学 3 年生で CEFR A1 相当以上の英語力を有している生徒の割合が上昇した。

R5 R6
53.7 → 55.9

②・・・CEFR B2以上を取得した英語教員の割合が上昇した。

R5 R6
44.7 → 46.0

未だ改善が必要な点

①・・・生徒が英語で言語活動をしている時間の割合は上昇している。千葉県は目標値を100%としているが、達成できていない。

②・・・中学 3 年生で CEFR A1相当以上の英語力を有している生徒の割合を令和 7 年度末までに 60%を目標にしているが達成できていない。

2. 要因分析

①・・・教員対象の研修を継続的に実施した結果、教師の英語による発話量が増加し、4 技能をバランスよく指導したことが、生徒の英語力向上につながったと考えられる。

②・・・教員の指導力・英語力の向上を図る研修に外部試験を活用しており、少しずつではあるが資格取得者が増加している。

①・・・県の調査により学年が上がるごとに言語活動を行う時間が減っていることが分かる。文法指導や「読むこと」等の一部の技能の指導に時間を割いていることが考えられる。

②・・・英語力の見取りは、様々な指標を複合的に用いる必要があるが、外部検定の結果のみを参考にしてしている可能性が考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

生徒の英語力向上のため、県として事業や研修を継続的に実施する。

◆AI英会話学習支援システムを活用した発信力を高める実証研究
県内 5 校で、生徒が授業及び家庭においてタブレット端末を活用し、AIとの英会話練習を重ねることによって英語を話す力を高めるとともに、言語活動が充実するように授業改善を図る実証研究を行う。また成果を広く県内に周知することで、ICT及びAIの効果的な活用につなげていく。

◆4 技能向上 English Workshop
教員の英語力向上を図ることで、英語による発話量の増加を通して、生徒の英語による言語活動の充実につなげることで、英語力向上を目指す。

◆英語教育連絡協議会
英語教育実施状況調査の結果分析と生徒の英語力の見取り方法の確認を行い、周知していく。

◆外国語教育におけるICTの効果的な活用研修
ICTやデジタル教科書を活用することで、生徒の英語による言語活動が充実するよう研修を行い、授業改善につなげていく。

◆英語力・指導力向上のための実践的なオンライン研修
文部科学省が実施する研修への積極的な参加を促し、授業改善と英語力向上を図っていく。また、受講生には授業公開や研修内容の発表等を促していく。

令和7年度 千葉県 英語教育改善プラン

英語を使って、社会問題等について、相手に分かりやすく説明し、討論することができる生徒の育成。

○CEFR A 2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 50.1% ⇒ R7: 60%)

○CEFR B 1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 22.9% ⇒ R7: 33%)

目標

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①・・・CEFR B2以上の資格を取得している英語教員の割合が増加している。(R5:75.0% ⇒ R6:79.7%)

②・・・CEFR A 2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる高校生の割合が増加している。(R5:45.9% ⇒ R6:50.1%)

未だ改善が必要な点

①・・・話すこと・書くことにおけるバランスのとれたパフォーマンステストが、十分に実施できていない。(R6実績: 41.1%)

②・・・授業中の言語活動や教師の英語使用について、更なる改善が必要である。(言語活動R6実績:55.4%)
(教師の英語使用R6実績:48.6%)

2. 要因分析

①・・・教員の指導力・英語力の向上を図る研修効果の検証に外部試験を活用しており、少しずつ資格取得数が増えてきている。また、校内研修や学校訪問の指導助言等により、教員の意識が高まっていることも要因の一つと考えられる。

②・・・研修等をととして、英語力の適切な見取りへの意識が高まり、授業改善が進んでいると考えられる。

①英語コミュニケーションⅢや、論理・表現において特に割合が低い項目があり、本文の内容理解や解説等に終始してしまっている、領域の偏りが生じてしまっている、といったことが要因と考えられる。また、適切な評価について十分な理解を得る必要がある。

②言語活動にかかる時間の割合において、「読むこと」の割合が高くなっていることから、読解に割く時間の割合が多くなっていることが要因の一つとして考えられる。効果的な言語活動の実施について、十分な理解を得る必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②生徒の英語力の更なる向上に向けて、「授業改善」「教員の英語力・指導力向上」を重点として位置づけ、研修や事業を実施する。

◆AI英会話学習支援システムを活用した発信力を高める実証研究
県立高等学校2校、県内中学校5校で、AI英会話と授業を連動させ、授業改善及び生徒の学習意欲向上を図る実証研究を行う。授業との効果的な連動等に重点を置き、成果を広く県内に周知し、ICTの効果的な活用を図る。

◆外国語教育におけるICTの効果的な活用研修
AI等を含むICTを活用することで、生徒の英語による言語活動が実践できるように研修を行うことにより、授業改善を促進させる。

◆4技能向上English Workshop
教員の英語力向上を図ることで、教員の英語による発話量を増加させ、生徒の英語による言語活動の充実につなげる。

◆英語教育拠点校実践交流会
英語教育拠点校（県立高等学校14校）において、近隣の小中学校及び県内高等学校の教員等を対象に授業公開を行い、校種間の連携を促すとともに、優れた実践を他の高等学校に周知する。また、外部講師を招き、指導方法及び評価の改善について助言を受ける。

◆ALT及び外国語担当教員指導力向上研修
直接雇用ALT及び英語担当教員にワークショップを中心とした実践的な研修を実施し、ALTの効果的な活用について周知していく。

千葉県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	58	45.9	59	50.1	60		60		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	30	21.9	30	22.9	33		36		40		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	49.9	100	55.4	100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	36.1	100	41.1	100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	75.3	100		100		100		100	
		公表(%)	100	40.9	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	43.5	100		100		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	90	75	95	79.7	100		100		100			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	42.1	100	48.6	100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	58	53.7	59	55.9	60		60		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	67.3	100		100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	75.1	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	95.5	100		100		100		100	
		公表(%)	100	48.4	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	66.1	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	65	44.7	70	46	75		75		75		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	61	100		100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	61.1	100		100		100		100
		公表(%)	100	24.4	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	48.8	100		100		100		100